

令和6年度 第6回 深伊沢小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 程 令和7年2月6日（水）17:00～18:10

2 場 所 深伊沢小学校 会議室

3 挨 拶

- ・委員長 ・本日は最終回ということで、本年度の総括と来年度に向けての話し合いをお願いしたい。
- ・校 長 ・1月後半から欠席者が少なくなり、今は大縄跳び大会にむけて、頑張っている。学校関係者評価では、委員の皆様からいただいたご意見をもとに、今後の改善点を考えていく予定である。

4 熟議内容

（1）学校関係者評価について

・評価項目1「学力向上×ICT活用」

- ・ICTを活用したわかりやすい授業が学校アンケートで大きく向上した。今後は、自己表現ができるようにさらに力を入れていきたい。

・評価項目2「長欠・不登校対策」

- ・勉強に困り感を感じている子、友達関係に困り感を感じている子など、一人ひとりに合わせた対応を行っている。
- ・不登校をなくしていくではなく、生まないという考え方がよい。
- ・不登校については、学力、仲間関係、家庭環境などさまざまな要因があると思うが、一人ひとりに寄り添い、丁寧に対応していきたい、
- ・挨拶は、中学生はできるが、小学生は恥ずかしいのか、あまりできていない。朝の登校時は、眠そうな子もいる。中学生が挨拶できるのは、部活動の教えもあるかもしれない。

・評価項目3「非認知能力の育成」

- ・非認知能力の育成のため、絵本を購入したが、非認知能力の育成に役立ったのか？
- ・1年生は、非認知能力の育成に役立つ絵本の読み聞かせを行い、意識づけをしている。
- ・4、5、6年生は、毎月の目標を設定し、掲示している。その中には、4つの非認知能力（社会性、自己肯定感、自制心、やりぬく力）があり、自分自身でどう高めていくかを考えている。意識化するのにとてもよい取り組みだと感じている。
- ・縦割り活動が根付いており、非認知能力（社会性等）の育成につながっていると感じている。

・評価項目4「地域との協働」

- ・FCE（深伊沢コミュニティイベント）で、「スポーツ」をテーマにしたのは、とてもよかった。運動好きな子どもが増えた。来年度のテーマは、「文化」を考えている。公民館活動とも連携していきたい。
- ・FCEについては、地域づくり協議会の協力について検討中である。

・評価項目 5 「特別支援教育及び人権教育」

- ・本年度の本校のいじめ認知件数は1件であった。未然防止、早期発見、早期対応を心がけていきたい

・評価項目 6 「学校経営」

- ・教師のなり手が少なくなったため、教職員の質が低下してしまうことが問題となっている。放課後の仕事をできるだけ少なくするなどの業務改善を行っているところである。例えば、ペーパーレス化を行うことで印刷時間がなくなる。また、来年度より tetoru (保護者連絡システム) が市内で一斉に導入されることになり、出席連絡も ICT 化されることになった。教職員の持ち帰り仕事も少なくできるよう、改善途中である。

(2) 来年度の行事予定について

別紙参照

(3) 今年度の総括・来年度に向けて (各委員より)

- ・子どもたちの姿に感動した。自主的な姿を見せていただいた。
- ・1年間参加させていただいたが、運動会や FCE で児童の運営の仕方が上手だと感じた。
- ・子どもたちの様子を参観させていただいたが、縦割り班活動など、すばらしかった。お茶屋さんに行って、学び、還元している。マイクなしで、話す力や聞く力もついている。あいさつも校舎内では、してくれる。
- ・わが子が深伊沢小学校に通っていた時代と比べても、今の方が縦割り班活動が進んでいて、みんなが主人公になっている。田舎ののんびりした学校だからかもしれないが、人数が少ないよさを出して行ってほしい。運動会で、「○コース、だれだれさん。」「はい。」の光景は微笑ましかった。
- ・通学路で追いかけてっこをしていることもあるが、子どもたちの元気な姿を見ると、うれしくなる。もっと関わっていきたい。
- ・世知辛い世の中になったが、先生方のご苦勞をわかっているつもりでいる。明るく、気づいたことを言わせてもらえたらと思っている。
- ・この学校の卒業生であるが、小さい学校ならではのよさを感じた1年であった。人脈もどこかしらつながっている。安心できる環境である。
- ・今まで学校運営協議会の存在自体を知らなかったが、学校のことを考えてくれていることが分かった。
- ・この学校に勤めて5年目であるが、地域の方とのつながりを感じている。
- ・この学校に赴任して1年目であるが、わからないことをわからないと言えるクラスづくりができています。自分たちで行事の企画を行っていることにも驚いた。複線型の授業も、市内で先進的に行っている。保護者や地域の方も協力的で、教員もよりよい姿を話し合っている。深伊沢小学校だと、大人になっても周りの人にやさしくできる思いやりのある人が育つと思う。
- ・地域人材でよい方がみえたらご紹介いただきたい。今年は、5年生が伊勢抹茶工場に向き、ゲストティーチャーとして国際的な視点でお話していただいた。そんな人材がみえたら、教育に取り入れていきたい。また、深伊沢小学校開校150周年に向けて、深伊沢の歴史についても調べている。子どもに紹介したい歴史があれば、教えていただき

たい。ふるさとに愛着のある児童が育つと思う。

- ・深伊沢小学校は、地域、保護者、学校が協働し、人々があたたかい地区である。
- ・学校再編計画については、鈴鹿市では複式学級を認めない方向で進んでいるが、計画ありきにならないようにしていただきたい。高学年の子が低学年の子の面倒をみるすばらしい特色を続けていただきたい。
- ・施設開放委員会は、今まで教頭の業務であったが、令和7年度は引き継ぎ行い、令和8年度より教職員が関与しない形になる。

5 その他

(1) 来年度の学校運営協議会について

第1回は、5月13日（火）17時に開催。

6 教育委員会より

- ・たくさんのご意見をいただき、感謝している。挨拶の件については、児童は腕章やたすきをしている人だと挨拶しやすい。非認知能力の育成については、以前から行っている。絵本や各行事などを通して、粘り強さや自制心などを高めていけるとよい。そのためには、振り返りがとても大切である。どんな思いを持ったかを振り返る中で、さらにステップアップできるとよい。ご協力いただき、ありがとうございました。